

# JOYAMA NEWS

University of Teacher Education Fukuoka  
Campus Magazine

vol. **43**

2018 Winter

Joyama 通信  
福岡教育大学広報誌

特集

## 在学生在語る！ 福教大「教職大学院」での 学び



国立大学法人

福岡教育大学

02 特集

新人院生×現職院生

10 教員紹介&学生から見た先生の魅力について

12 福教大NEWS

14 社会連携

16 サークル紹介

マラソン愛好会

アカペラサークルAcorde

17 第20回 福教大卒OB&OG紹介

田川郡添田町立添田小学校

祖母仁田 湧さん

18 TOPICS

視覚障害者等用データ送信サービスの  
利用を始めました

表紙モデルの福教大生

福岡教育大学基金のご案内

19 キャンパスからの便り

特集 新人院生×現職院生<sup>※</sup>

# 在学生在語る！ 福教大「教職大学院」での 学び

福岡教育大学に2009年(平成21年)4月に開設された教職大学院。現在は、主に学部卒者を対象とする「教育実践力開発コース」、現職教員をスクールリーダーとして育成する「生徒指導・教育相談リーダーコース」「学校運営リーダーコース」の3コースがあります。教員採用試験の「特別選考枠」「名簿掲載期間延長」、新任教員の「初任者研修の一部免除」など、教職大学院進学者・在籍者・修了者に特例措置をとる教育委員会が増え、注目度が高まっている教職大学院。今回は福教大出身の院生を司会役に、他大学出身の新人院生、大学院在籍中の現職院生が、授業や実習など教職大学院での学びについて語り合いました。

※新人院生…「教育実践力開発コース」の院生の通称

現職院生…「生徒指導・教育相談リーダーコース」「学校運営リーダーコース」の院生の通称

## このまま先生になっていいのか… 教職への強い思いから選択した 「教職大学院」への進学



**池田** 現職の平井先生、黒野先生はもちろん、僕を含む学部卒の新人院生4人もそれぞれ教員免許を持っています。学部卒業後、教育現場ではなく教職大学院を選んだのはどんな理由からですか？

**山口** 最初は教職大学院に在籍していた先輩の話聞いて興味を持ちました。もっと詳しく聞いてみようかと大学院の説明会に参加したとき、ある教授がこんな話をされたんです。「教科そのものを学びたいなら他でもいい。教職大学院は“教育”を学びたい人の場所。教員として子供と本気で関わっていきたい人に来てほしい」、これを聞いてまさに自分が目指すものだと進学を決めました。

**村上** 私は学部時代の教育実習で、自分の授業に疑問を感じたのがきっかけです。教壇に立って一生懸命に授業をしても子供たちの反応が薄く、退屈そう、眠そうにしているんです。もっと楽しく、子供が自分から学びたいと思うような授業スタイルを見つけたい、教育を

もっと深く勉強したいという気持ちが強くなりました。

**池田** 実は僕も村上さんと同じです。教育実習で自分の授業力の乏しさに気がきました。できのよくない授業なのが自分でも分かる、それでも子供たちは気を使って必死に聞いてくれるんですよね。だからこそ、もっと授業力をつけたいと思ったし、学級経営や生活指導も学びたいと思い教職大学院への進学を決めました。

佐藤さんは学部時代に他大学で中学校の教員免許を取得していますよね。なぜ福教大の教職大学院に進学したんですか？

**佐藤** どうしても小学校の先生になりたくて。大学に入りなおそうかと考えていたとき、教職大学院の小免プログラム(小学校教員免許状取得プログラム)を知って、これだ!と。在学期間3年間で小学校の教員免許が取れるうえ、教育も学べる。僕は教育学部出身ではないので福教大で教育をじっくり学べるのも魅力でした。



**池田** なるほど。僕ら4人は学部卒業後に教職大学院へ進学したストリートマスターですが、平井先生、黒野先生は現職の小学校教諭です。なぜ改めて教職大学院で学ぼうと思われたんですか？

# 教職大学院棟



新人院生!

現職院生!

新人院生!

教育実践力開発コース2年

やまぐち あやこ  
**山口 綾子**

佐賀大学卒。学部時代はあまり周りにいなかった「教育に情熱を持つ仲間」と教職大学院で出会い切磋琢磨する日々。目指すは「常に子供に寄り添う先生」

教育実践力開発コース2年  
(司会進行役)

いけだ じゅんや  
**池田 惇也**

福岡教育大学卒。昨年、教員採用試験(広島市中学校理科)に合格し、来年4月からの教員生活に向け、現在研究に没頭中。院生内のリーダー役でもある

学校運営リーダーコース1年

くろの ゆうや  
**黒野 祐也**

長崎大学卒。教員歴15年目の現職小学校教諭。いちクラス担任から、主幹教諭など教師として次のステージでの活躍を求められるようになり教職大学院での学びを決意

生徒指導・教育相談  
リーダーコース1年

ひらい あきのぶ  
**平井 陽伸**

福岡教育大学卒。教員歴11年目の現職小学校教諭。「新人院生と一緒に学ぶことで私自身も成長できる。一般的な教師像にとらわれず、いろいろなことを吸収していきたい」

教育実践力開発コース  
(小学校教員免許取得プログラム)2年

さとう こういち  
**佐藤 功一**

西日本工業大学卒。中学校の数学の教員免許を取得したものの、「どうしても小学校の先生になりたい!」。小免プログラムの存在を知り、教職大学院で夢を目指す

教育実践力開発コース1年

むらかみ さくら  
**村上 桜**

筑紫女学園大学卒。学部時代の教育実習で、授業中、退屈そうにしている子供の様子をまのあたりに。自分の授業力に課題を感じ、教職大学院への進学を決意

**平井** 私は教員になって11年目ですが、教職に「これでいい」というゴールはないと思っています。先ほど授業力の話がありましたが本当にその通りで、教壇に立つと子供たちの様子がよく見えますよね。子供たちが主役になっている授業はやっぱりすごいです。教室から「できた!」「分かった!」という声が自然に上がってくる。改めて授業力を見直す機会が欲しかったこと、また学級経営を含めた広い意味での指導力を高めたい思いもありました。

**黒野** 現場にいと1歩離れて教育を学ぶ機会是这样ありません。一方で教員15年目にもなると主幹教諭など、新たな役職の打診を受けるようになります。いちクラス担任から次のステージ、先生方を指導する立場になったとき今の自分に何ができるだろう…そう考えていたタイミングで教職大学院をすすめられ、よし行こうと決めました。

## “気付き”の多い実践型授業 現職院生と一緒に学ぶメリットも

**池田** 教職大学院の授業で特に印象的だったものはありますか?

**村上** 「教科教育実践と指導法の改善」という授業の中で、自分の模擬授業を現職院生に見てもらいアドバイスをを受ける機会がありま

した。授業の中で関連した資料を見せるとき、私は一度に全てを見せていたんですが、「話の内容に合わせて一部ずつ見せていくと子供たちは“次は何だろう?”って興味を持つよ」とアドバイスされて。教職大学院の授業はそういう「気付き」が多いように感じます。

**佐藤** 実践型の授業はインパクトがありますよね。「スクールコンプライアンスと教職プロフェッションの開発」という授業は、教員の社会的な立場や求められる資質・能力を学ぶものですが、その中で保護者対応をワークショップ形式で体験する機会がありました。保護者役の人からすごい剣幕で「いったい何があったんですか!!」と迫られると、ロール・プレイングながら結構どぎまぎして…。これは現場に備えた心構えになるなと思いました。

**池田** その授業、僕も去年経験しました。「どういうことだ!」って怒鳴られると設定だと分かっているけど委縮しますよね(笑)。でも体験してみて理解できたのは、保護者の根底には「子供によりよい学校生活を送ってほしい」という思いがあるということ。理不尽な言われ方をされても、やはりそこは誠心誠意向き合わなければならない場面なんだと実感しました。





**黒野** 実際、いろんな保護者の方がいらっ  
しゃいますから。その心構えを持って現場に出  
るのは教員として強みになると思いますよ。

**池田** 黒野先生や平井先生のような現職院生  
と一緒に授業を受けたり、身近に話ができる  
のは僕らにとって心強いですよね。

**村上** 本当にそう思います。実際の教育現場  
を私はほとんど知らないし、何か課題を感じて対応策を考える場合  
にどうしても理論から始めてしまうんです。そういうとき現職院生に  
相談すると「その方法もいいけど、現場ではこういうことも起こり得る  
から…」と経験からの助言をもらえて。

**山口** しかも、考えを話してくださった後で、「それであなたはどうか  
したい?」と最後はまたこちらに投げ返してくれる。意見を押し付けず、  
自分で考える方向に導いてくれるのは、さすが教育のプロだなといつ  
も思います。

**平井** 私たちも新人院生と一緒に学ぶことで得るものが多いです。  
忘れていたことを思い返したり、新たな視点をもらったり。新人院生  
に助言したりサポートをする経験は、学校に戻って先生方と協働して  
いく際にも活かされてくるはずですから。私たちの方も訓練させても  
らっているんです。

## 学部時代と何が違う? 大学院の多彩な「学校における実習」

**池田** 教職大学院は実習の豊富さも特色です。学部時代に経験し  
た教育実習と比べてどういうところに違いを感じますか?

**山口** 教職大学院の実習は、教員免許を取得している者による実習  
という点で、学部の教育実習とは異なります。学部の教育実習は、授  
業をやってみて体験的に学ぶ印象でした。教職大学院の実習は、授  
業をより広い視点から客観的に見る理論的な学びも大きいように感  
じます。例えば、授業の中でなぜ先生がそういう指導をしたのか、そ  
の理由を自分なりに分析していくんです。

**池田** 具体的にどんな指導がありましたか?

**山口** 算数の授業で先生が黒板に答を書いていくんですが、半分  
が間違えているんです。すると教室がザワザワし始めて…。私は、わ  
ざと間違えることで先生が子供と対話を図ろうとしているんだと考え  
ました。でも、先生に理由を聞くと違っていました。黒板の答と自分  
の答が違っていることで文字式をもう一度見直す子が出てきて、その  
子が他の子に説明を始める。なぜその答になるのかを子供同士で考  
え、意見し合うきっかけづくりがねらいだったんです。子供の考える



力をこんな方法で養う先生もいるんだと驚きました。

**村上** 私は「朝の会」の構成でアドバイスをもらいました。大事な連  
絡事項を先に伝えて、残りの時間でお話をするという流れをとって  
いたんですが、先生は「話の順番を入れ替えた方がいいよ」と。最初  
にお話をして子供たちの意識を自分にしっかり引き付けたところで、本  
当に頭に残してほしい連絡事項を伝える方が記憶に残りやすいから  
と言われて納得。素晴らしい先生は「どうすれば子供にしっかり伝わ  
るか」を常に意識されている。学部時代の教育実習ではそこまで気  
付く余裕はありませんでした。

**黒野** 幼稚園や中学校で実習を経験できるのも新鮮です。新人院  
生も幼稚園・中学校での実習がありますよね?

**山口** はい、ありました。小学生は友達より「先生に褒められたい」  
という気持ちの方が大きいように感じますが、中学生になると仲間同  
士の目がすごく気になる様子で。発達段階の差を感じました。

**池田** 中学校実習では体育祭や文化祭も体験しました。学校行事  
における先生方の協働も見られましたし、驚いたのは中学生になる  
と生徒の代表として体育委員長が体育祭を仕切ること。先生も体育  
委員長に一任する場面が多く、少し距離を置いて子供の成長を見守  
る指導を知ることができました。

## 教職大学院修了生への特例措置 採用試験合格後の2年延長、 1年目の初任者研修の一部免除も

**池田** 近年、教職大学院の進学者・在籍者・修了者に特例措置をと  
る教育委員会が増えてきました。その一つが教員採用試験合格者の  
採用候補者名簿への登載期間の延長\*です。僕は去年、採用試験  
に合格しましたが、この措置のおかげで、教職大学院での研究に没  
頭できています。今年度から福岡県・福岡市・北九州市は2年の延  
長措置がとられることになっています。

**山口** 今までは教員採用試験か教職大学院か、どちらかを選ばな  
ければならなかったので選択肢が広がりましたよね。教職大学院進  
学を決めていても同時に採用試験も受けられるから。

**池田** 山口さんと村上さんは今年、福岡県と福岡市の教員採用試験  
を受験しましたが、勉強はどうでしたか?

**山口** 県も市も教職大学院の在籍者(及び修了者)の特別選考枠  
が設けられていて筆記試験が免除でした。筆記試験があると、どう  
してもそちらに時間を割かざるを得ないけど、今回は模擬授業試験  
や面接対策に重点を置くことができました。

**村上** 福岡市の一次試験は論文試験だけでした。筆記が免除にな

ることで一次試験の準備段階から二次試験の勉強を早めに始められるのがよかったです。

**池田** さらに来年度から、福岡県と北九州市教育委員会で、教職大学院修了の新任教員に関しては初任者研修が一部免除になるそうです。



**平井** これは助かると思いますよ。新任時代に経験しましたが、初任者研修は1年を通してかなり出張が多い研修なんです。子供たちとたくさんの時間を共有したい1年目に、クラスを離れる時間を最小限にできるのはすごいいと思います。

**黒野** 1年目はとにかく手一杯。クラスの学級運営に加えて、学校の仕事も覚えなければならないし、Off-JTで外に出る機会も多い。通常ならここに初任者研修が加わるところが免除になるわけですから。免除されるということは言い換えれば、その内容を「すでに教職大学院で学んでいる」と教育委員会が認めているということ。ここでの学びに自信をもっていいと思いますよ。

## ゴールは教員採用試験合格ではない その先に続く教員人生を見つめて

**池田** 教職大学院で学ぶうちに、僕は「こういう教師になりたい、そして、こんな子供たちを育てたい」という目標が明確になりました。例えば、理科は大きな意味で捉えたと身の回りの事物・現象の根本に関する学びだと思ふんです。子供たち全員が科学者を目指す必要はなくて、理科の知識で自分の生活をより良いものにする。生活に活かせる力を教科の学びを通して育むことができる先生になりたいと思っています。皆さんは教職大学院に来て自分自身にどのような変化を感じていますか？

**山口** 私は福教大出身ではないですが、学部時代、周りに教員を目指す人がわりと多かったんです。でも、理想の教師像みたいな話をする人は少なく。教職大学院の皆とは池田さんが今話したようなことを日頃からよく話すじゃないですか。教職への情熱を感じるし、その意見やものの見方、考え方が自分と違うもので



も耳を傾けるようになった自分があります。迷ったとき「そういえばあの人があんなことを言っていたな…」と周りの考えを参考にするようになって、教壇に立つのは一人だけど一人じゃないというか。仲間がいることの心強さも自分の成長につながっていると感じています。

**村上** すでに教育現場に出ている友人から学校の話や聞くと、最初は正直うらやましい思いもありました。でも、半年が過ぎた頃から「(仕事が)しんどい…」という言葉が増え話を聞いてみると、悩みの内容が教職大学院で学ぶことにリンクしていることが多く。今は「私は自分の選んだ道で即戦力になる力をしっかり身に付けたい、すぐ追いついてやるぞ」という思いです。

**池田** どんな先生になりたいと考えていますか？

**山口** 学部卒のまま現場に出たら、私はきっと自分のことで精一杯になっていたと思います。今は自分のことではなく、子供のことに時間をたくさん使える、子供に寄り添う先生になりたい。そのために残りの大学院での時間を大切に過ごそうと思います。

**村上** 私は教育学部出身ではないので、教職大学院で初めて「子供たちのためにこんな先生になりたい」という情熱を持った人たちに出会うことができました。まずはそれが大きな財産です。学部卒の頃は教員採用試験の合格がゴールになっている部分がありましたが、今はその先を見えています。どんな子供を育てていきたいか、私自身がどんな先生になり、どんな教員人生を送っていきたいか。まだ理想の教師像は見えていませんが、今後の大学院生活の中で自分の根幹を育みながら理想とする教師像を確立させていきたいです。

**池田** 教職大学院という選択肢は福教大生の間でもまだそれほど知られていませんが、僕は教職大学院という進路を選んで本当に良かったと思っています。授業での学び、実習での学び、志を同じくする人たちとの出会いによる学び。様々な学びを通して、ひと回りもふた回りも成長できたと感じていて、学部時代に漠然と抱えていた不安が、今は「学びを子供たちに還元していく」という目標に変わりました。修了まで約半年、残りの時間も「今しかできない学び」を意識しながら大学院生活を充実させたいと思っています。

皆さん、本日はありがとうございました！



### ※教員採用試験合格者の採用候補者名簿への登載期間の延長とは？

教員採用試験に合格すると、採用候補者名簿に登載され、翌年度に教員として新規採用されることとなります。

平成30年度から、福岡県・福岡市・北九州市教育委員会では、登載期間の2年延長措置がとられることとなりました。つまり、学部4年次に合格した場合、2年間教職大学院で学びを深めた後で、教員として新規採用されるということが可能となります。教職大学院1年次に合格した場合も、従来どおり延長措置がとられ、大学院での学びを最後まで継続した上で、教壇に立つことができます。

このように、採用候補者名簿の登録期間を延長する自治体が増えていきますので、受験する自治体の募集要項で各自確認してください。

福岡教育大学教職大学院

TEL.0940-72-6012

FAX.0940-35-1746

e-mail: grdsptch@fukuoka-edu.ac.jp

福岡教育大学教職大学院

検索



# 教職大学院 (教職実践専攻)



## 教職大学院を目指す皆さんへ

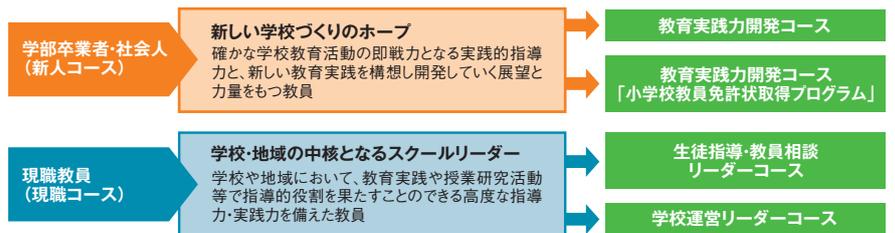
福岡教育大学教職大学院 専攻主任 / 森 保之 もり やすゆき

本学教職大学院は、豊かな人間性と強靱な精神を備え、社会の要請に応えうる高度専門的職業人の要請を担う教育・研究組織として、平成21年に開設され、今年度で10年目を迎えています。「次世代を切り拓くたくましい子供を育む高度専門職業人の養成」という当初からの目的のもと、平成30年度修了予定者を含めると修了者総数は200名を超え、その多くが学校現場や教育行政機関等でリーダーとして活躍しています。今後も教職大学院が果たす役割はますます大きなものになっていきます。

「学び続ける教師の姿を見て、子供は学ぶ」と言われます。教師こそ最大の教育環境であると考えます。教育は希望の営みです。次世代を切り拓く児童生徒とともに学び、学校教育に熱意あふれる皆さんの教職大学院への進学を心より期待しています。

## コース紹介

本学教職大学院には、学部卒業者及び社会人対象の「教育実践力開発コース」、現職教員等対象の「生徒指導・教育相談リーダーコース」・「学校運営リーダーコース」の3コースにより構成されています。また、平成28年度より、「教育実践力開発コース」内に「小学校教員免許状取得プログラム」(3年プログラム)を設置しています。



### 教育実践力開発コース

#### 教育実践力開発コース 「小学校教員免許状取得プログラム」

学部段階で修得した教員としての基礎的な資質能力を前提に、教育状況を俯瞰する広い専門的視野、即戦力となる実践的指導力等を持った教員を養成します。

同コース「小学校教員免許状取得プログラム」は、修了年限3年となっており、1年次は小学校教員免許取得に係る科目を、2・3年次は同コースの修了年限2年の院生と共に教職大学院の科目を履修します。



### 生徒指導・教育相談 リーダーコース

子供が学校に適応できるよう、各学校での取組を包括的にリードする力、学校内外の教育や福祉の関係者・関係機関をコーディネートする力、地域の諸学校のネットワークで指導的役割を果たすことのできる力を育成します。

これらにより、個々の児童生徒の成長発達を促し、問題行動発生後の対応だけでなく、問題行動の予防と、さらに各学校の教育目標達成のため、全校の教育機能向上を目指しての具体的な取組の推進に資するスクールリーダーを養成します。



### 学校運営リーダーコース

これまでの教職経験で身につけた学級経営力及び授業力、若い教員や同僚教員を指導してきた経験をもとに、それらを科学的に分析・考察・客観化する能力を身につけます。

また、学校が直面している諸課題を多面的に分析し、その解決のために学校全体の教育実践や指導の改善をリードする指導力を発揮できるようにします。

これらにより、教頭、主幹教諭、指導教諭等として、学校及び研究会等を運営し地域の課題を解決することができる、将来の学校運営リーダーを養成します。



# 授業紹介

本学教職大学院のカリキュラムには、以下の特徴があります。

授業については、学部卒等院生と現職教員院生が共に学ぶ「**共通科目**」、コース毎に学ぶ「**コース別科目**」があり、理論的知識を身に付けます。

「**課題演習**」では各自が実践的課題に取り組み、授業で獲得した知識や技術を、直面する課題解決へと展開します。

これらの学びを「**学校における実習**」で実践します。そこで得た発見を、課題演習や授業での学びにフィードバックさせていきます。

本学教職大学院では、このような学びのサイクル《**理論と実践の往還**》を大切にしながら、教師としての力量を向上させていきます。

今回は、「共通科目」と「コース別科目」の中からそれぞれ一科目ずつ紹介します。

## 共通科目

### 学級における 特別支援教育の課題と実践

のうとみ けい こ  
担当教員／**納富 恵子**

今日の特別支援教育の動向と課題を、学校教育法や中央教育審議会答申などをもとに、グループ討議等を通して考察します。発達障害、特に通常の学級に在籍する学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症などの特性をもつ児童生徒の学習面・行動面・対人関係における特徴や支援方法について動画などを含め事例から学びます。また、特別支援教育の校内体制の整備・改善事例を全国レベルで知り、学校全体での特別支援教育の効果的な取り組み方について理解します。また、障害者差別解消法の施行にともない必要になった「合理的配慮」についても学びます。

なお、今年度は、現職教員を対象とした、夜間・休日開講授業としても実施しています。



#### 【院生から見た授業の感想】

生徒指導・教育相談リーダーコース2年

いけがみ えい こ

**池上 詠子** (大木町立木佐木小学校在籍)

本授業では、特別支援教育の基礎編ともいうべき内容を学ぶことができます。関連資料やDVDなどを使っての情報提供、講義により、動向や課題、発達障害の特性、具体的な支援策などについて理解を深めることができました。さらに、世代や校種を越えて、新人院生と現職院生とで、今日的課題について協議する活動も大変有意義でした。新たな視点や多様な考えに触れることのできたこの学びを、今後、自身の学校での取組にも生かしていきたいと思えます。

## コース別科目

### 教育実践研究の理論と 授業分析トライアル

さかい きよたか ちから やすのり あおやま ゆきのり  
担当教員／**坂井 清隆、主税 保徳、青山 之典**

授業実践を科学的に分析するための授業記録の取り方、授業分析の方法について学びます。授業分析は、単に授業の特徴を指摘するだけでなく、教師の指導と子供の反応との関連や教材内容の発展などの観点において、子供の学びの可能性、次の授業への発展性、また他教科の授業への関連性を見出していくことを目的とします。

そのため、実際に、附属学校や近隣の協力校等での授業研究発表会等で優れた授業を記録して、その授業分析を通して、高度な授業実践のイメージを形成します。また、個々の分析結果を小集団で検討することで、実践知を獲得します。



#### 【院生から見た授業の感想】

教育実践力開発コース2年

みぞた ゆうき

**溝田 友気** (久留米大学出身)

この授業では、授業の参観、授業分析、分析結果の検討などを行っています。それまでは、授業者の手だてや授業の組み立てばかりに目が向いていましたが、この授業を通して、児童・生徒の表情やつぶやき、発言、活動等を核とした授業参観・分析の視点へと変容することができました。

また、このような「授業をみる目」は、自分自身の授業づくりに影響しています。このことは、「学び続ける教師」の1つの要素である授業実践力向上につながるものと考えます。

# 研究室紹介

本学教職大学院では、教育に関する研究をする「研究者教員」と、学校管理職や教育委員会等で経験を積んだ「実務家教員」による指導体制を取っています。

今回は、2名の教員の研究室を紹介します。

## 芋生研究室



いも お しゅう いち  
**芋生 修一 特任教授（実務家教員）**

【専門分野】社会科教育 道徳教育 人材育成

【略 歴】昭和55年、筑紫郡那珂川町立岩戸小学校教諭として採用。福岡県教育庁教育振興部義務教育課指導主事、福岡教育大学附属福岡小学校副校長、福岡県教育センター副所長を経て、平成30年4月より現職。

【研究室の取組及び学部生へのメッセージ】

芋生研究室では、「学級づくり(学級経営)は授業づくりから」を合い言葉に、各教科の指導目標や内容分析等の教材研究及びそれらに基づいた授業構想ができる教師を目指してゼミを進めています。現在、小学校と中学校社会科を専門とする5名のゼミ生と共に、授業づくりに必要な要素や資質・能力について議論したり実践を持ち寄りながら、各専門教科や道徳教育等の多様な指導理論及び実践的な指導力を高め合っています。授業づくりに興味がある皆さん、芋生研究室でお待ちしております。

### 【研究室紹介】



教育実践力開発コース1年

こおり としのぶ

**郡 寿宜**(福岡教育大学出身)

芋生研究室では、院生同士や先生とのコミュニケーションを深める企画・運営を院生が自主的に行いながら、教科に関する課題意識を持って研究に励んでいます。院生同士で持ち寄った資料や自分の意見を吟味し合うだけでなく、現場経験の豊富な芋生先生から子供や学校の実際に即した助言をいただくことで、自身の教科の捉え方や指導観が深まっていると感じます。



## 坂井研究室



さか い きよ たか  
**坂井 清隆 講師（研究者教員）**

【専門分野】教育方法学 社会科教育

【略 歴】平成5年、佐賀市立赤松小学校教諭として採用。国立大学法人佐賀大学文化教育学部代用附属佐賀市立本庄小学校教諭、学校法人西南学院 西南学院小学校教諭を経て、平成29年4月より現職。

【研究室の取組及び学部生へのメッセージ】

坂井研究室では、多様な社会科教育の理論を検討したり、実践化のための方策(指導案や模擬授業)を議論したりすることを中心にゼミ(課題演習)を進めています。また、実践した授業に対して質的な分析を行い、授業の特徴や子供の学びの可能性、教師の強み、研究上の主張点などもディスカッションしています。とても研究熱心なゼミ生が所属していますので、ディスカッションは毎回数時間に及びます。

社会科教育に限らず質的な研究(授業研究や授業分析)に興味がある皆さん、坂井研究室でお待ちしております。

### 【研究室紹介】



教育実践力開発コース・小学校教員免許状取得プログラム3年

やまもと あやか

**山本 綾香**(佐賀大学出身)

坂井研究室では、子供の姿から事実を明らかにする質的研究をベースとして、課題演習などに取り組んでいます。毎回の課題演習では、教科に関する先行研究を調べたり、社会科に限らず、実習先での授業実践に向けて、教材や指導法を検討しながら模擬授業を行ったりして、よりよい授業の在り方を模索しています。

また、学校現場の授業を参観し、その記録に基づいて、様々な観点からの考察を通して、「授業をみる目」も養っています。



# 学校現場で活躍する修了生の声

平成21年4月に開設された本学教職大学院は、平成31年3月の修了予定者を含め、200名を超える修了生を輩出しています。

にし たけ のぶ

**西田 剛信** 教頭先生 (学校運営リーダーコース 平成24年3月修了 宗像市立赤間小学校在籍)

## 教職大学院で最も印象に残っていることは何ですか？(授業、院生生活など何でも)

教職大学院に在学中の2年間は、「小中一貫教育全国サミット(東京都品川区・広島県呉市)」「佐賀市」「鳥栖市」「福岡市」「春日市」「高松市」「熊本市」等、小中一貫教育やコミュニティスクールの視察に行く機会をたくさん与えて頂きました。いろいろな自治体の取り組みや成果と課題を学んだり、先進校のたくさんの先生方と話したりする中で、自分の学びが高まったように思います。



登校時の見守り

## 教職大学院の特色として、共通科目では学部卒等院生と現職教員院生が共に学び合います。このことにどのようなメリットを感じますか？また、それは現在どのように活かされていますか？

教職大学院の共通科目の授業では、今日的な教育課題や教科等の実践的な指導方法、学校教育と教員の在り方などについて、幅広く専門的に学ぶことができました。特に、教育実践力開発コースの新人院生との演習やディスカッションは、柔軟な思考の大切さを再認識させられました。現在、学校現場では若い教師が増えています。この時に関わった教育実践力開発コースの新人院生との学びが、今の自分の学校運営に活かされていると感じます。



教育実習生たちと

## 現在の教員生活の中で、教職大学院での学びはどのように活かされていますか？

私は教職大学院で「施設分離型小中一貫教育校における学校組織の活性化を図る一方法 ～研究活動におけるミドル・アップダウン・マネジメントを通して～」というテーマで研究を行ってきました。教職大学院で学んだミドル・アップダウン・マネジメントの手法は今でも学校運営の中で活用しています。また、教職大学院時代に学んだメンタリング等についても実践しています。

## 教職大学院への進学を検討している人にひとこと

私が教職大学院を修了してから7年が過ぎました。今回、JOYAMA通信の原稿依頼を受けて私自身改めて感じたことは、「教職大学院は基本的なことを学べる共通科目と最先端の教育を学べる専門科目と両方学べる素晴らしい大学院」ということです。常に自己研鑽していくという前向きな心があれば、教職大学院への進学を検討している方のニーズにあった大学院になると思います。また、教職大学院時代の同期生とは、今でも年に数回、情報交換会を行っています。素晴らしい仲間にも出会えるところです。

さか た りゅう すけ

**坂田 隆介** 先生 (教育実践力開発コース 平成29年3月修了 宗像市立自由ヶ丘小学校在籍)

## 教職大学院で最も印象に残っていることは何ですか？(授業、院生生活など何でも)

授業の課題について同期の院生と真剣に話し合ったことです。教育実践力開発コースの院生は、教職経験がない人ばかりでしたが、講義で学んだことや本から得た知識、自分達の経験をもとに様々なことについて話をすることができました。特に、実習先での1時間の授業について互いに模擬授業を見合いながら、ざっくばらんに意見交換ができたことは、とても良い経験となりました。今考えると、とても良い授業研究だったと感じています。素晴らしい仲間に出会うことができてよかったです。



## 現在の教員生活の中で、教職大学院での学びはどのように活かされていますか？

授業の作り方や生徒指導のことなど多くの学びがありました。現在、最も役立っていると感じるのは、特別支援教育と保護者への対応です。発達障害に関する知識があることは、通常学級に在籍する自閉症やADHDなどの児童を支援する上で、とてもプラスになりました。また、そのような児童の保護者と連携を図る機会が多々ありますが、大学院で学んだ「傾聴」を生かして連携を図ることでよい関係を築くことができています。



## 今後の教員生活への抱負

現在、2年目の教員です。校務分掌など1年目の頃には免除されていた仕事が増えてきて、改めて教師の大変さを実感しています。そんな中、私が伸ばしていきたい力は2つあります。1つ目は、「発問力」です。いかに短い言葉で子供たちにわかりやすく指示を出すか。また、問いかけるか。これが現在の私の課題と感じています。日々の授業で磨いていきたいです。2つ目は、「全体を見通す力」です。今は、目の前の仕事をこなすことで精一杯ですが、いずれ中核を担える教員になれるように努力していきたいです。

## 教職大学院への進学を検討している人にひとこと

大学を卒業し、すぐに現場に出て教職に就くことは、実践経験を積むという点で利点があります。しかし、現場は多忙で授業研究をする時間をつくりだすには、努力が必要だと感じます。教職大学院のよさは、2年間という時間をかけて、志の高い仲間と一緒に豊富な知識や経験をもった教授の方々から教職について学べることだと考えます。教職大学院という恵まれた環境の中での2年間は、決して遠回りにはならないと思います。私は、教職大学院で学ぶことをお勧めします。

# 教員紹介 & 学生から見た先生の魅力について

技術教育講座  
教授 平尾 健二

出身地:福岡県  
最終学歴:九州大学大学院  
博士後期課程  
取得学位:博士(農学)  
本学着任:2002年



## 生きものを育てる心を 教育に活かそう

### 専門の研究テーマについて

私の専門は農学の一つである「作物栽培学」です。本学ではそれを、技術教育の中の生物育成教育や農業教育に発展させながら、農学と教育学との融合を図っています。また、最近では有機農法にも興味をもち、その科学的メカニズムの検証にも取り組みながら、アイガモ農法や土壌微生物の活性化による野菜づくりの教材化にも力を入れています。

### 大学教員に進むことになった きっかけについて

元々は、農作物の収量生産を向上させて世界の食料事情を改善したいという夢を実現するために研究者になろうと大学院に進み、専門の研究(多収性イネの光合成能力の解明)に打ち込みました。また、小さい頃から憧れている「宮沢賢治」の農学者としての生き方や、農学部時代の恩師である窪田文武先生の研究姿勢の影響も大きいです。



イネのサンプリング調査(宗像市)

### 研究成果の教育への 還元について

本学に着任して、まず開発に取り組んだ、学校でできるイネの簡易栽培教材「ペットボトル稲」は、2005年から実践を行い、毎年複数の

小学校で出前授業を続けています。これまでに福岡県下の小学生を中心に5000人を超える子供たちと一緒にイネづくりを行いました。また、毎年幼稚園で、イネづくりと食育をテーマに研究室メンバーと取り組んでいる出前演劇「太陽戦隊おこめレンジャー」は今年で15作目となり、研究室の学生たちに、伝統として受け継がれています。



幼稚園での出前演劇「太陽戦隊おこめレンジャー」

### こだわりの物・考え・モットー について

農学・農業をベースにした教育研究である以上、常に農場・生産現場で汗をかきたいと

考えています。特に最近では著名な農家や国の研究機関と連携した共同研究を行いながら、研究室の学生にもその現場に触れてもらうようにしています。プロの農家の技術に対する情熱や作物に対する厳しくも優しいまなざし。その現場と学生をつなぐのも私の仕事であると考えています。

### 福岡教育大学で学ぶ 学生に一言

学生みなさんに2つの提案をしたいと思っています。一つは、学生のうちに、何か生きものを「育てる」活動を行うこと。「育てる」活動は、生きもののちょっとした変化に気づき、その状況をよみとり、何を求めているかを判断できる力を養います。まさに、教育に重要な資質です。もう一つは、できるだけ多くの人・もの・ことに出会うこと。いろいろな出会いから予期せぬ幸せに出会う「セレンディピティ」は本当に存在すると、私は信じます。



平尾教授と平尾ルーム所属の学生達

ごとう えいた おおいし かずよし  
後藤 栄太さん、大石 一慶さん(教育学研究科教育科学専攻教科教育創造コース技術教育領域1年)  
ありよし まさき まつばら あかり  
有吉 優樹さん(中等教育教員養成課程技術専攻4年)、松原 朱里さん(同3年)

### 学生から見た先生の魅力について

平尾先生は、学生との距離がとて近く、いつも学生目線で物事を考えてくださる親しみやすい先生です。そんな平尾先生は、とてもアクティブな方で、活動範囲がとて広く、地域の小学校へのお出前授業や、都市部の人たちへ農業への理解を広めるためのイベント等を積極的に行っています。人脈も広く、今まで様々な方に会わせていただきました。毎年幼稚園で披露するルーム生達との演劇は、自ら博士役を演じるなどマルチな才能も持ち合わせる楽しい先生です。

教職実践講座

のうとみ けいこ  
教授 納富 恵子

出身地:山口県  
最終学歴:九州大学医学部  
取得学位:医学士  
本学着任:1990年



# 子どもたちの自立と 社会参加を支援できる教師に

## 専門の研究テーマについて

発達障害とりわけ自閉症スペクトラム(以下自閉症)の人の理解に基づく包括的な指導支援法や、小学校や中学校での学びのユニバーサルデザイン(UDL)を参考にわかりやすい授業づくりの研究をしています。自閉症の児童生徒は、知的発達レベルは様々です。しかし、実態把握をもとに構造化された指導を行うことで、安心して学び自立や社会参加を目指すことができます。また、自閉症の人の問題行動の多くが、「いつどこで、何をすればよいか。そして終りはなにか。」を視覚的具体的に示す構造化により改善することを検証してきました。さらに、県教育委員会の研究に協力し、学校での応用を行い県教育センターのホームページでも「はじめよう自閉症の子どもへの支援」「すすめよう自閉症の子どもへの支援」の冊子がPDFで紹介されています。

※研究室HP <http://www.notomikeiko.com/>



2017年国際学校心理学会(マンチェスター)

## 大学教員に進むことになった きっかけについて

精神科医として多くの発達に課題のある子どもたちが学校で理解されず苦しみ、時には不登校や問題行動を示していることを知りました。自閉症児を適切に指導できる先生を増や

したいと本学の公募に応募しました。精神科医もやりがいがある仕事だったので悩みましたが、子どもたちにとって大切な環境である教員の意識や知識や技能を高め、実践研究を協働で行うことが長期的には子どもたちのためになると思ったのです。



科研「学びのユニバーサルデザイン」に関する調査(ボストン ローガン空港)

## 研究成果の教育への 還元について

特別支援教育講座所属のころは、特別支援教育センターで自閉症の子どもたちのへ支援を学生さんと行いました。保護者や本人からの聞き取り、実態把握、アセスメント結果に基づく指導計画と教材作り実践をチームで行い、振り返り次の改善につなげました。また、余暇活動のクリスマス会での調理や出し物、ボーリングも楽しい思い出です。

また現在は、教職大学院で現職教員の大学院生と、教育現場の特別支援教育の実態を分析し良い支援が組織的に行える仕組みづくりや授業改善にユニバーサルデザインの視点を取り入れる実践を行っています。修士生4人は文部科



納富教授と納富ルーム所属の学生達

学大臣優秀教員表彰をうけました。また地域の特別支援教育を推進していくリーダーとして指導主事や研究主任など活躍しています。

## こだわりの物・考え・モットー について

特別支援教育を行うには、教育的な愛情、知識と技術が必要で、それも日々進化していきます。学び続けること。柔軟であること。悩むこともあると思いますが、「悩むより、学べ」です。

## 福岡教育大学で学ぶ 学生に一言

障害の有無にかかわらず、違いを超え互いに尊重し互いに学びあえる子どもの育成が求められています。すべての子どもが、わかる、できる、もっとと思える学びを提供できるように学び続けましょう。大学院では様々な研修をしています。HPもご覧ください。

## 学生から見た先生の魅力について

わたなべ よしゆき      しのくら あさみ

渡部 禎之さん、篠倉 麻美さん(教育学研究科教職実践専攻 生徒指導・教育相談リーダーコース2年)

納富先生は、とても明るく笑顔が絶えない先生です。特別支援教育の研究者と精神科の医師という二つ面をお持ちになられていることもあり、豊富な知識を用いた、多面的な指導が魅力です。

また、学生達への気配りをよくしてくださる先生です。研究のことで行き詰まった時は、何か家庭の事で悩んでいないかなど、気にかけてくださいます。現コースには、家庭を持っている学生が多くいるので、この気配りがとても温かいです。

これからも先生の素敵な笑顔を見続けていきたいです。お身体を大切にしてくださいね。

## オープンキャンパス2018を開催

福岡教育大学では、7月21日(土)にオープンキャンパスを開催しました。

10時からの開催にもかかわらず、朝早くから約3,000人ももの来場者をお迎えしました。

オープンキャンパスでは、大学説明会のほか、各選修・専攻の紹介や体験授業、見学

ツアー、在学生や教職員による個別相談など、様々なプログラムを学内各所にて開催しました。

アカデミックホールにて開催した大学説明会では、櫻井学長による講話などを行いました。



大学説明会の様子



体験授業(初等教育教員養成課程)



体験授業(理科専攻)



オペラ・アンサンブル・コンサート(音楽専攻)

学内各所で実施した体験授業等では、大学での学びや大学の施設を体験・見学いただきました。

また個別相談コーナーでは、在学生及び教職員に対し熱心に質問をする高校生や保護者の方々の姿が多く見受けられました。

その他、図書館の開放、及びサークルのうち一部が練習公開や成果の披露を行いました。



ポスター展示(初等教育教員養成課程)



学生による相談コーナー



アカペラ披露(サークル活動)

オープンキャンパスのアンケートにご協力いただいた方に、本学オリジナルグッズを贈呈しました。これを機会に本学により親しみを抱いていただけましたら幸いです。

皆様からお寄せいただいた貴重なご意見を踏まえ、来年度以降も、「参加して良かった」と思っていたいただけるようなオープンキャンパスとなるよう、スタッフ一同尽力いたします。



本学オリジナルグッズ

## 一般社団法人鶴陽会から寄附金が贈呈されました

平成30年8月8日(水)、一般社団法人鶴陽会から福岡教育大学への寄附金贈呈式を開催しました。

一般社団法人鶴陽会は、明治26年、福岡教育大学の前身の一つである福岡師範学校を母校とする卒業生が教育者として、また退いた後も各自がその資質と技能を活かして社会に貢献する会として発足し、以来、125年の歴史を刻み、今日まで、教育現場で福岡県のみならず九州一円の学校教育を牽引するとともに、広く一般市民に開かれた美術展・音楽会・地方巡回公演・バレーボール大会・調査研究等を実施し、県下の教育・文化振興に寄与されました。

しかし、近年の高齢化に伴い会員数が著し

く減少し、組織運営の限界を超えるものとなったため、平成30年3月31日をもって解散し、長い歴史と伝統に幕を閉じられることとなり、6,300万円を超える残余財産のすべてを本学に寄附いただくこととなりました。

贈呈式には、鶴陽会役員と本学関係者が出席し、中岡晴彦会長から櫻井学長に寄附金の目録が手渡されました。挨拶の中で、中岡会長は「この寄附金を基に、これからも教育に携わる優秀な人材を輩出してほしい」との期待を述べられました。

これに対し、櫻井学長から「この寄附に対する思いを真摯に受け止め、本学の学生が福岡県をはじめ全国の学校教育に大きく貢献できる人材となるよう、大学として努めていきます」

と謝辞がありました。

本学は、いただいた寄附金を、経済的理由で就学が困難な学生に対する奨学金として活用していく予定です。



中岡晴彦会長(右)から櫻井学長(左)へ目録の贈呈

## 2018年度夏期海外短期研修

本学では「グローバル社会に対応する児童生徒」を育成できる「グローバルな視野を持った教育者」の養成、グローバル化する教育現場に対応した英語教育推進を担う教育者の養成のための取り組みの一環として、海外研修を実施しています。この夏は、(1)カンボジア インターンシップ・ボランティア研修、(2)クアラルンプール 英語研修を実施しました。

### (1)カンボジア インターンシップ・ボランティア研修(8月20日～9月1日 参加学生:11名)

カンボジアでの研修は今年で3回目となりました。これまでの活動・交流先(現地小学校、英語塾、地雷被害者インタビュー、JICA青年海外協力隊で活動中の先輩訪問)に、現地の日本語学校、大学が加わり、同年代の学生等と過ごす時間が大幅に増加しました。

### (2)クアラルンプール 英語研修(A日程:9月2日～18日 B日程:9月23日～10月7日 参加学生:計3名)

クアラルンプール英語研修は、クアラルンプール郊外のKDU大学内にある英語学校ELC(English Language Company)で実施する英語研修です。現地大学内での研修ということもあり、多国籍の学生と机を並べて学習したり、学生寮でKDU大学の学生と一緒に食事を作ったりと、日本では経験することのない様々な貴重な体験ができました。



英語塾でのプレゼンの様子

## 参加学生の声

- ・よく海外に行く自分の価値観や見える世界が変わるということを耳にしますが、正直あまり信じていませんでした。しかし帰国した時には、自分の考えや視野が確実に広がったと感じました。(初等2年 F・H)
- ・この研修に参加し、カンボジアについて考えたり、自分には何ができるのか悩んだり、自分のこれからについて考えたり、自分という面から向き合うことができました。今までの人生の中で一番充実した13日間でした。(初等1年 M・K)
- ・英語塾で日本紹介授業を行い、先生達と今までにない最高の交流ができました。彼らとは今でもFacebookで繋がっています。(初等2年 S・M)

### 初等教育教員養成課程1年 しのざき あい 篠崎 愛

私は勉強の中で英語が一番嫌いで苦手でしたが、新しいことにチャレンジしてみたいという気持ちだけはあったため、この研修に参加しました。実際行ってみると、本当に英語でしゃべることばかりの毎日でした。通訳してくれる現地スタッフも英語とクメール語なので英語が分からなければ会話も成り立ちません。たくさん話しかけてくれたのに話が続きず申し訳ない気持ちになりました。また、英語塾で、同年代の先生が、私分からない顔をしたときに、すごく丁寧に何度も教えてくれましたが、それでも、よく理解できず質問にもうまく答えられませんでした。

英語で誰かとコミュニケーションが取れると本当に嬉しいし、それが出来ないと悔しい。当たり前ですが、それを実感した今、反省だけで終わらず、必ず行動に移したいと思います。

(レポートからの抜粋)



現地大学にて日本の紹介



アンコールワットにて

## 「トビタテ!留学JAPAN」第6期生が帰国しました!

平成29年8月から1年間、トビタテ!留学JAPAN(6期生)制度に採択され、オーストリアへ留学していた山中すなお(芸術課程音楽コース4年)さんが帰国しました(以下、本人による感想抜粋)。

私は、専攻分野の音楽を学ぶべく、自分で留学先を探し、音楽の本場ウィーンの音楽院に1年間通いました。また、多くの国の人々とドイツ語で会話し、現地の合唱やクリスマスミサにも参加し、貴重な異文化経験も出

来ました。苦悩や挫折、それを乗り越えた達成感を味わった留学が、福岡しか知らなかった私の人生や価値観を大きく変えてくれました。何かを実現するために大切なものは、勇気を持って一歩踏み出す力です。「自分を日本を、そして世界を変えたい」そんなあなたの始めの一歩を留学が待っています!

ウィーンの日夏祭りにて、日本の唱歌・童謡披露  
\*採用実績(累計):5名(うち1名は現在フィリピンに留学中)



## 本学学生が「第57回熊本県新人演奏会」のオーディションに合格しました!

8月13日(月)、熊本市西区のくまもと森都心プラザホールで「第57回熊本県新人演奏会」のオーディションが開催され、本学大学院に所属する金戸愛香さん(教育学研究科 教育科学専攻 教科教育創造コース 音楽教育領域1年)が見事、オーディション声楽部門に合格しました。金戸さんは高校生の頃から声楽を始め、熊本県新人演奏会に出演するのが夢の一つだったそうです。

金戸さんは、「熊本県新人演奏会で、魅力的に歌うことができるように、さらに腕を磨きたいと思います。福岡教育大学大学院に入学して、とても良い先生方に恵まれ、学内演奏会など多くの舞台経験をさせていただいています。お客様の前で歌う一つ一つの経験が私自身の成長に繋がっており、本当に感謝しています。」と、演奏会に向けた抱負と感謝の気持ちを述べています。

学内演奏会に向けて(右:金戸さん)





# 社会連携

## 競争的資金獲得のための 研究推進支援プロジェクト

研究開発推進室長 飯田 慎司(副学長・教育学部長)

研究開発推進室では、科研費等の競争的資金獲得に向けた支援を行っています。今回は、研究推進支援プロジェクトについてご紹介したいと思います。

本学の中期計画等に掲げられた諸目標の達成にかかる学術研究の推進を図り、科研費等の競争的資金を獲得することを念頭に置いて研究費を配分する制度が研究推進支援プロジェクトです。対象は、科研費等競争的資金の最終年度の場合を除いて、当該年度に競争的資金を獲得していない本学教員です。支援期間は単年度であり、採択された場合は、論文投稿、学会発表を行い、プロジェクト終了1年後以内に科研費や受託研究等外部資金の申請を行うことが義務づけられています。

例年、4月下旬から5月中旬にかけて申請を行い、研究開発推進室内に設置する審査会における審査を経て、獲得者を学長が決定しています。平成30年度の支援総額は250万円程度(獲得者は9名)でした。申請書の中では、「プロジェクトの目的と概要」「プロジェクトの実施計画」「期待される成果・効果」を記述する欄が設けられており、科研費の申請に準じた様式になっています。また、「申請額と主な用途」も経費の必要性と当該プロジェクトとの関連性を含めて記入するので、科研費申請に向けての練習になるとともに、学術論文等の業績を積み上げていくことで、科研費申請時に記載することが求められる「これまでの研究活動」の内容の充実も期待できます。

今月号では、平成29年度の本経費獲得者の中から、平成30年度の科研費等の競争的資金を獲得された2名の先生方に、研究推進支援プロジェクトによって行われた研究の一端をご紹介いただくことにしました。

### 平成29年度福岡教育大学研究推進支援プロジェクト一覧

番号 (提出順)	所属講座等	申請代表者	プロジェクト名
1	社会科教育講座	黒木 貴一	斜面の多次元空間データ活用と防災支援
2	保健体育講座	本多 壮太郎	リズムを活用した剣道授業用学習教材の開発
3	理科教育講座	宮崎 義信	ホウ素およびバナジウムの溶液内反応の熱力学
4	教職実践講座	坂井 清隆	質的な授業評価を通じた教師のPDCAに関する研究
5	技術教育講座	梅野 貴俊	科学的根拠に基づいた運動技能テストの構築
6	教職教育院	熊木 悠人	幼児期の間接互惠性の獲得を支える認知・情動的基盤の検討
7	教職教育院	菅沼 敬介	生活科・総合的な学習の時間で育てたい資質・能力に関する研究
8	生活総合教育講座	天野 真二	韓国の初等教育における学校図書館の活用に関する研究
9	理科教育講座	長澤 五十六	新たな酸化的付加反応明のモデル錯体の合成
10	国語教育講座	勝又 隆	文章・談話構造から見る係り結び構文の研究
11	教職実践講座	小泉 令三	幼稚園・小学校での家庭教育支援のためのニーズ調査と理論構成



## 斜面の多次元空間データ活用と防災支援

教員名 | 黒木 貴一 (社会科教育講座・教授)

### 研究の概要

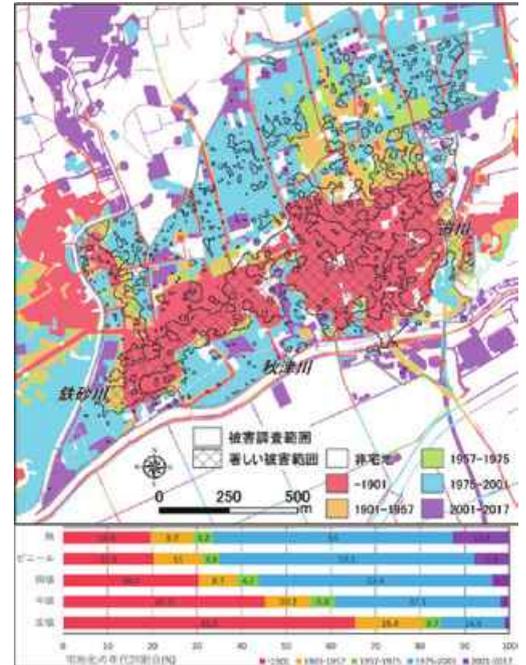
2016年熊本地震では、布田川・日奈久断層帯で、特に益城町では縦及び横ずれ変位を伴う地震断層が出現しました。断層周辺では多くの被害が生じたことは記憶にまだ新しいと思います。この被害に対して、地質・地形の調査が行われ、干涉SARやUAV(ドローン)による地表変位が確認され、科学的にその背景を解明する試みが多くの学協会でなされました。今回の研究では、地理学習でよく用いられる空中写真の実体視観察とGISによる地図の新旧比較から、地震被害の背景を議論しました。

### 成果と課題

火砕流台地の縁にある益城町の地形を観察したところ、不自然な坂道が多いことが分かりました。そして、その坂道近傍で被害が大きかったため、地下から延びる断層の影響を繰り返し受けて、地面の変形が進み撓曲層になったと推定できました。明治以降の地形図で宅地の範囲を追跡したところ、湧水の多い台地裾から高燥な台地上に次第に拡大したことが分かりました。そして古い宅地程被害が大きかったため、古い建物の多い古い宅地は地震の影響を受けやすかったことが推定できました。実際は、地震被害は地面の変形と宅地の古さの双方の影響を受けています。

右図は、宅地化年代の区分図の上に著しい被害範囲を重ねました。またその図と被害程度のデータから、被害の程度別(全壊>半壊>損壊>ビニール(ブルーシート被覆)>無)に宅地化の年代別割合を分析し、棒グラフに示しました。これより宅地が古い程、被害程度は大きくなるのが良くわかります。

今後は地形の変形速度の測定や、宅地化の再進行の確認を続け、学校安全教育へのフィードバック方法を考えていきます。



被害範囲を重ねた宅地化年代の区分図

## 幼稚園・小学校での家庭教育支援のためのニーズ調査と理論構成

教員名 | 小泉 令三 (教職実践講座・教授)

### 研究の概要

幼児から中学生の保護者を対象にした家庭教育支援の学習プログラム「保護者のための社会性と情動の学習プログラム(SEL-8Pプログラム)」を開発するために、おもに次の3点を実施しました。

- (a)社会的能力の検討:SEL-8Pプログラムで育成を図る社会的能力を検討しました。
- (b)ニーズ調査:学習プログラムの実施者として想定している幼稚園教員と小中学校教員を対象に、保護者に必要であったり、保護者が求めていると考えられる、子育てに関する事項(ニーズ)を調査しました。
- (c)プログラム構成:ニーズ調査をもとに、先行実践も考慮してSEL-8Pプログラムの内容の構成を行いました。

### 成果と課題

成果として、8つの社会的能力(①自己への気づき、②他者への気づき、③自己のコントロール、④対人関係、⑤責任ある意思決定、⑥生活上の問題防止のスキル、⑦人生の重要事態に対処する能力、⑧積極的・貢献的な奉仕活動)の枠組みにしたがって、ニーズ調査の結果をもとに、幼児～中学生の6つの年齢区分(幼1・2、小学低・中・高、中学)で、合計76個のユニットの構成表を作成しました。各ユニットは、保護者会のときなどに学級担任が15～20分程度で実施できるようにする計画です。例えば、右の図は小学生の子どもをもつ親が、怒りを感じたときに適切に行動するための「こころの信号機」モデルを説明する図です。子どもと保護者の両方がこうしたスキルを使えるようにすることがねらいです。

今後の課題は、具体的な指導案と資料を準備することです。現在、作業を始めていますが、幼稚園や小・中学校で効果的に使っていただくための工夫を模索中です。大きな負担をかけずに実施できるとともに、保護者のニーズに応えられる支援にしたいと考えています。



「こころの信号機」のモデル図

# マラソン愛好会

初等教育教員養成課程 2年

まつもと りさ  
松本 里紗

私たち『マラソン愛好会』は、1年生から4年生の男女計75名が所属しているサークルです。

週に2回、学校周辺を5～10km走っています。

個人の能力に合わせてチームを編成し、無理のない程度に活動することで、誰でも気軽に参加できる点と、春は桜、夏はセミの鳴き声、秋は紅葉、冬は雪のような季節を感じながら走ることができる点が、マラソン愛好会の魅力です。

年に数回、福岡県内で開催されているマラソン大会に出場しています。そのうちの一つに、毎年、GWに宗像ユリックスで開催される「24時間駅

伝」があります。みんなで協力し、強豪チーム相手に3位以内入賞を目指し、出場しています。昨年は4位と惜しい結果だったため、来年は目標達成に向けて頑張ります。また、北九州市で7月に行われている「グリーンパークリレーマラソン」の女子部門では、昨年は1位、今年は2位と大健闘しました。

大会以外にBBQやスポーツ大会などのイベントも行っています。

陸上経験者だけでなく、運動不足解消目的などで、“楽しく走る”をモットーに様々な人が参加しています。これからも仲良く楽しくのモットーを大切に日々走り続けていきます。応援よろしくお願いします。



サークル紹介

C I R C L E I N F O R M A T I O N



# アカペラサークル Acorde

初等教育教員養成課程 2年

せき あや か  
関 彩花

私たち『Acorde』は、楽器を使わずに4～6人の声だけで演奏する“アカペラ”という音楽活動を行っています。演奏する音楽のジャンルは、J-POPや洋楽、合唱曲、童謡など、様々です。

現在、『Acorde』には100名以上が所属しており、グループに分かれて活動しています。一つ一つのグループがコンセプトを持って取り組んでいます。

学祭はもちろん、老人ホームや小学校の音楽鑑賞会などで演奏を

行っており、毎年冬にはホールを貸し切って“WinterLive”というライブを行っています。

私たち『Acorde』は、学祭や“WinterLive”のような大きな行事に全員で協力して取り組むことを通して、アカペラの上達だけでなく、人としての成長を目標としています。

これからも皆さんにいい歌を届けられるように頑張っていくので、応援よろしくお願いします！出演依頼もお待ちしています！





算数科(2けたでわるわり算の筆算)の授業風景

## 大学院生の皆さんへ

私見ですが、学部卒生の「進学」という選択肢は、それほど多くはありません。卒業後活躍する同級生との会話で、当然複雑な気持ちを抱いたこともあるでしょう。当時私はそうでした。だからこそ私は大学院生活を充実させました。同級生と繋がり、自己の専門を超えた領域まで深めました。日々の授業と他領域の院生と現代の教育問題や修士論文の根幹を徹底議論しました。これが私の教育観に大きな影響を与え、この繋がりが卒業後も絶えず、共同論文執筆の構想まで発展しつつあります。どうか院生同士繋がって下さい。

## 「おれ、来年も先生がいい」

これは、1学期によく教室を飛び出していた子供の言葉です。初めての出会いに戸惑っていたのは私自身だけではなく、子供たちも同じでした。同僚の先生に相談し、保護者と連携をとりながら、いろいろな手立てをとりました。転機になったのは、休み時間のサッカー。指導教員の助言を基に、少しでも時間を割いて汗を流すことを選択しました。すると夏休みにもかかわらず、毎日学校に来て、「先生、サッカーしよう。」と。2学期からは教室から飛び出さなくなり、授業を受けるようになりました。言葉では伝わらなかった思いが届いた瞬間でした。

## 「栽培学研究室」での3年間

「ものづくり教材としてのヒョウタン」をテーマに修士論文を執筆しました。平尾健二先生のご指導の下、学会発表、論文執筆等多くの機会をいただき、研究に励むことができました。さらには、学外の農家や他大学との先生



学会発表(日本産業技術教育学会)

との繋がりをいただき、研究をさらに深めました。今年10月に、投稿論文が認められ、日本産業技術教育学会九州支部論文賞を受賞しました。この場を借りて感謝の意を表します。



ランプシェード



マラカス



カリンバ



オカリナ

ヒョウタンを使った工作物

## ヒョウタンを用いた「合科的・関連的な指導」

小学校学習指導要領総則 第4節指導計画の作成

「児童の実態等を考慮し、指導の効果を高めるため、**合科的・関連的な指導**を進めること」



修士論文「ものづくり教材としてのヒョウタンに関する研究」概要

田川郡添田町立添田小学校

そぼにたゆう

教諭 祖母仁田 湧さん

教育学研究科/教育科学専攻  
教科教育創造コース  
技術教育領域(栽培)  
平成30年3月修了



# 視覚障害者等用データ送信サービスの利用を始めました

平成28年度に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、現在は「読書バリアフリー法(仮称)」の成立に向けた検討が活発化しています。

学術情報センター図書館では、近年の高まりつつある障害のある方の学びに対するニーズを踏まえ、本を目で読むことが難しい方のために、本を耳で“聴く”環境を整備しました。国立国会図書館が製作又は収集した視覚障害者等用データ約1万7千点を無料で利用することが可能です。本人の使用に限りませんが、USB等の記録媒体に複製してお持ち帰りいただくことも著作権法上認められています。

サービスの対象となる方は、障害等により文字でお知らせを読むことが困難な方です。

本を“聴きたい”という方が身近にいましたら「福岡教育大学の図書館で“聴く”ことが出来ます。」とお伝えください。



※学外者の入館には身分証が必要です。また、試験期間中は利用制限があります。

## 表紙モデルの福教大生

今回の表紙は、特集の座談会で、教職大学院での学びや魅力について語ってくれた、教職大学院の院生の皆さんに登場していただきました。

参加院生を代表して、座談会で司会進行役を務めた、教育実践力開発コース2年の池田惇也さんからのメッセージを紹介します。

「座談会を通じて、今まで教職大学院で学んできたことや仲間と協力して試験や実習を乗り越えたことを思い出することができました。先生方の講義に加え、現職院生からリアルな現場目線でのアドバイスをいただいたり、仲間の話を聞いて刺激を受けたりと、様々な人との出会いが自分を成長させてくれたのだと感じました。ここでの経験はきっと現場に出てからも私の支えとなると思います。このような教職大学院が持つ魅力をみなさんに感じていただけたら幸いです。

教員を目指している皆さんが学びたいことが教職大学院で得られると思います。ぜひ同志をもって共に学び高め合いましょう。」



## 福岡教育大学基金のご案内

福岡教育大学では、教育研究の更なる発展や充実を図ることを目的として、「福岡教育大学基金」を設けております。つきましては、広く教育界、産業界、地域の皆様方に、本基金への格別のご理解とご支援を末永く賜りたく、お願いを申し上げます。

公式ホームページ

福岡教育大学基金

検索

[https://www.fukuoka-edu.ac.jp/about/efforts/foundation/fukkyou\\_foundation](https://www.fukuoka-edu.ac.jp/about/efforts/foundation/fukkyou_foundation)

「福岡教育大学基金」についてのお問い合わせは、福岡教育大学財務企画課までご連絡をお願いします。

お問い合わせ先

福岡教育大学財務企画課 TEL:0940-35-1210 FAX:0940-35-1701 E-mail:kaihosa@fukuoka-edu.ac.jp

# Campus Letter

キャンパスからの便り

じょうやまかい  
同窓会城山会

## 平成30年度 同窓会城山会夏期研修会報告

本年度の夏期研修会は、8月5日に福岡リーセントホテルにおいて138名の会員が参加して開催されました。実践発表では北九州地区女性部幹事の井上俊子氏、北九州市支会幹事長の花田博之氏2名が各地区の活動の状況と将来の抱負を語られ、講演では、前八女市教育委員長・大学支援委員会副委員長の城後武史氏が「城山会に期待するもの」と題して先輩同窓会からの歴史を語る中で「子どもを信じる心」「子どもから学ぶ姿勢」をもつ教師・OBであることの大切さを訴えられました。

### 城山会後期 主な事業

10月～11月	8地区 拡大支会長会開催
10月27日(土)	新卒・若手会員情報交換会 大学 大Ⅱ教室 卒業生と学生参加
12月15日(土)	大学支援委員会
2月 3日(日)	女性部2月のつどい 福岡リーセントホテル

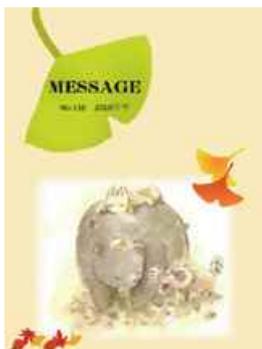


福岡教育大学同窓会 城山会事務局  
TEL・FAX:0940-33-2211  
E-Mail:jouyamakai@able.ocn.ne.jp

健康科学センター

## MESSAGE No.116 2018 秋号

今回の内容は、「健康のために食べる?好きなものを食べる?」、「運を縁に変え、縁をツキに変える」、「元気・活気・根気・運氣・勇気・優気・笑気を発信する学生支援課」、「マインドフルネス的ダイエット〜「今、ここ」を大切に〜」、「未来を明るいものに変える記憶のトリセツ」、「無気力を放置しない〜「心の張り」をとり戻す方法〜」、「質問にお答えします」、「眠たくなったら、どうしよう」など盛りだくさんです。表紙は中等美術の図師秀男さんのデザインです。是非手にとってご覧ください。



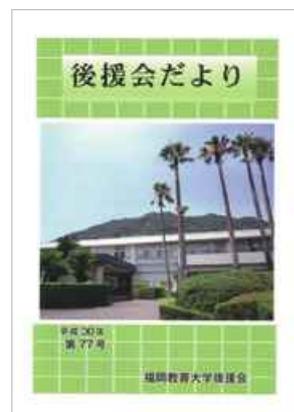
健康科学センターHP  
<http://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/~hokenctr/index.html>

後援会

## 「後援会だより」第77号発行のお知らせ

「後援会だより」第77号を8月に発行し、保護者の皆様に送付いたしましたが、お手元に届きましたでしょうか。第77号は会長、学長、理事のお話やキャリア支援、東北での学習支援ボランティア、後援会の事業などについて掲載しています。

皆様のご意見ご要望などお待ちしております。



福岡教育大学後援会 事務局  
TEL・FAX:0940-33-8070  
E-Mail:kouenkai@eos.ocn.ne.jp

## 福教大美術科の集大成をお見せします!!

### 「福岡教育大学 卒業・修了制作展」

会 期:平成31年3月12日(火)～3月17日(日) 10:00～18:00  
会 場:福岡県立美術館 〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神5-2-1  
入場料:無料

福岡教育大学(美術)平成30年度卒業生・修了生一同、これまでの制作・研究の集大成として、卒業・修了制作展を開催いたします。

絵画・彫刻・デザイン・教科研究等の多様な分野の作品を展示いたします。美術がお好きな方も、美術をまだよく知らない方もお楽しみいただける展覧会となっております。

皆さまのご来場、心よりお待ちしております。



お問い合わせ先:  
福岡教育大学 教育学部 初等教育教員養成課程 美術選修  
4年 平井 里佳 (TEL)050-5885-1537

国語以外は苦手な子が小説家になるかもしれない。  
ノートにらくがきしてばかりの子が画家になるかもしれない。  
チョウやバッタにしか興味のない子が100年後の絶滅種を減らすかもしれない。  
ケガの多いやんちゃな子が多くの命を救う医者になるかもしれない。  
インターネットばかりしている子が平和を創るプログラムを発明するかもしれない。

その可能性を広げる。

教師は、  
世界を変える仕事だ。

あすの教育に、夢を。



国立大学法人  
福岡教育大学  
University of Teacher Education Fukuoka

[www.fukuoka-edu.ac.jp](http://www.fukuoka-edu.ac.jp)

Joyama 通信 vol.43

福岡教育大学広報誌第43号 2018年12月12日  
編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学 経営政策課

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1  
TEL.0940-35-1205 FAX.0940-35-1259  
e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp  
ホームページ: <https://www.fukuoka-edu.ac.jp/>



福岡教育大学  
イメージキャラクター  
フッキー



携帯電話サイト



Twitter



YouTube

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。